



# メディカル チェック



## 内科・泌尿器科

のはなし

早期発見・早期治療！泌尿器科の腫瘍の話〜その97

### コロナ禍における、新しい『リスク判定健診』の話②

隔月連載の腫瘍の話、前回に引き続き、『リスク判定健診』について、お話しいたします。

去る5月8日、新型コロナウイルス感染症が、感染法上、5類に位置づけられました。しかし、この感染症がなくなっただけではないので、今後も引き続き、感染拡大防止対策

小限とすべく、人と人との接触機会を減らすことも必要です。そこで当院では、短時間で行える、14項目の『ワン・ツコイン健診』や『リスク判定健診』を充実させ、これらと『ドック』を上手く組み合わせることで、病気の早期発見・治療につなげることを推進してきました。では、前回お話しした、当院で昨年

年から新たに導入した『メタボリックシンドローム健診』や『がんリスク判定健診』を含めた、この『リスク判定健診』と、『ワン・ツコイン健診』や『ドック』には、どのような違いがあるのでしょうか？

用かつ短時間でできる、新しい『スクリーニング検査』と言えましょう。次回、さまざまナリリスク判定検査をご紹介します！

一方、『リスク判定健診』は、ある病気が、検査時に発生しているかだけではなく、今後、発生するリスクが高いかどうかを予想することができ、主で、主に採血で検査を行います。リスクが高いと判定された場合は、その病気の精密検査を行い、病気があれば、治療を速やかに開始する、また、発生していなければ、今後の発生を想定し、定期検査をこまめに行って、早期発見・治療につなげていくことができません。病気の早期発見を目的とした、有

策が必要なことに変わりはありません。私たちが健康で長く生きるためには、がんを含め、さまざまな病気の早期発見・治療が何より重要で、そのための定期健診やドックの受診は、欠かすことのできないものです。しかし感染症流行期には、健診実施時に感染リスクを最

タロバランスがんリスク判定健診』を含めた、この『リスク判定健診』と、『ワン・ツコイン健診』や『ドック』には、どのような違いがあるのでしょうか？

従来からの健診やドックは、検尿、採血、CTなどの画像、消化管内視鏡検査などを実施して、その検査時点で各臓器に異常があるかどうかを調べるもので、中高齢者においては、病気が見つかった時、すでに病気が進行している場合もあり、病気が発生しやすくなる40〜50歳頃から、1年ごとの定期的な検査を実施して、病気を早期に発見することが勧められます。

北彩都病院 泌尿器科  
 癌診断・治療センター長  
 徳光 正行  
 医学博士、日本泌尿器科学会専門指導医、日本がん治療認定医

北彩都病院 宮下通9  
 0161-26-6411  
 永山腎泌尿器科 永山2ノ7  
 0161-46-1500